

主催

アーカスプロジェクト
ARCUS
 Residency for Artists
 Experiments for Locals
 Moriya, Ibaraki

協力

ARE
 ART ROUND EAST ※2

eca

イバラキダバダ



※1

2012年3月24日(土)ー4月7日(土) 1:00PMー7:00PM ※日・月曜日は休館

CLOSING PARTY 4月7日 6:00PMー7:00PM クロージングパーティー

※スケジュール等は都合により変更する可能性があります。最新情報はウェブサイトにてご確認ください。
www.arcus-project.com/

出品
作家

ミリアム・ウォルシュ	IRL	MIRIAM WALSH
藤林 悠	JPN	HARUKA FUJIBAYASHI
山本 信幸	JPN	NOBUYUKI YAMAMOTO
川松 康徳	JPN	YASUNORI KAWAMATSU

企画

川松 康徳 + 藤林 悠
 YASUNORI KAWAMATSU + FUJIBAYASHI HARUKA

dabadaは
場所を特定してゆきます。

DabaDAは
美しく無いものです。

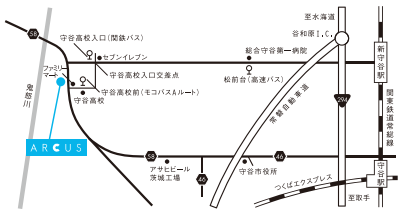
ダバダは
ダ場ダであり、ダダ+場です。

会場・お問い合わせ

アーカススタジオ <http://www.arcus-project.com>
 〒302-0101 茨城県守谷市板戸井2418 もりや学びの里内
 TEL/FAX 0297-46-2600 arcus@arcus-project.com

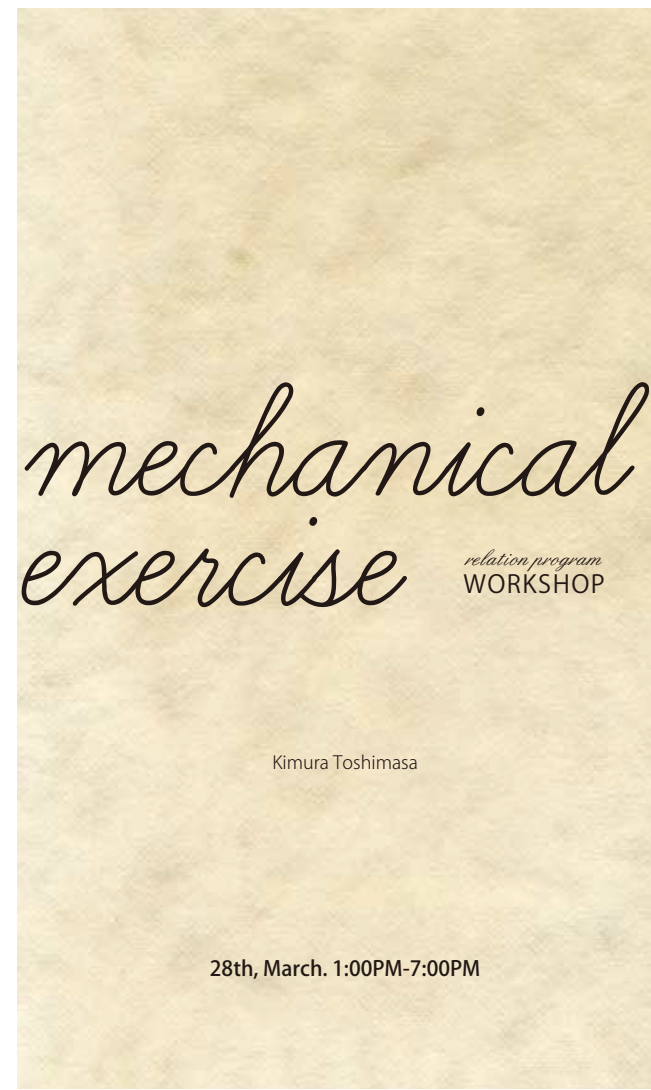
展覧会に関するお問い合わせ

川松 康徳 www.kawamatsuyasunori.com
 TEL 080-3023-5121
contact@kawamatsuyasunori.com
 ※御不明な点、ご質問はメールにて上記までご連絡下さい。



※1
 【アーカスプロジェクト ロッカーームについて】
 ロッカーームは人材育成と地域交流を目的に、
 アーカスサポーターが自発的・主体的な活動をする
 ための常設スペースとして、アーカスプロジェクトが
 運営しています。ここでは、サポーターの自主企画の
 実現を応援しています。

※2
 アーカスプロジェクトは、常磐線・TX沿線沿線地域
 で連携によってアート関連活動を通じた地域活
 性を推進する「ART ROUND EAST」(略称 ARE・
 アール)に参加しています。



mechanical
 exercise
 relation program
 WORKSHOP

Kimura Toshimasa

28th, March. 1:00PM-7:00PM

イバラキダバダ関連企画
『ここから、どこでも。』発行記念ワークショップ
「メカニカル・エクササイズ」

2011年度に「ロッカールーム」で行われた企画を中心に取り上げている記録集冊子『ここから、どこでも。』の完成披露と発行を記念いたしまして、冊子のデザインを担当した木村稔将によるノートブックづくりのワークショップを実施いたします。
本ワークショップは、イバラキダバダの関連企画として、出展アーティストとともに展覧会を鑑賞しながら、ゆっくりと進めたいと思います。
木村稔将と一緒に、イバラキダバダをヒントにしなが、参加者各々の自由なノートブックづくりをぜひお楽しみください!

※ワークショップの詳細は、アーカスプロジェクトのホームページでご確認ください。
www.arcus-project.com

- 日時 2012年3月28日(水) 13:00 - 19:00
- 会場 ロッカールーム、他(アーカススタジオ内)
- 申し込み 不要 ※参加費無料
- お問合せ アーカススタジオ <http://www.arcus-project.com>
〒302-0101 茨城県守谷市板戸井2418 もりや学びの里内
TEL/FAX 0297-46-2600 arcus@arcus-project.com

木村稔将 Kimura Toshimasa
1978年茨城県生まれ。
2006年オランダのWerkplaats Typografie [ArtEZ institute of the Arts グラフィックデザイン学科修士課程]を修了。
schtuccoを経て、2010年よりエディトリアル・デザインを中心にフリーランスとして活動中。



Kimura Toshimasa × ARCS Residency for Artists Experiments for Locals Moriya Ibaraki ×

dabadaとは・・・

美術という形式がいまなお現代において意味を持ち得るのならば、それは媒体としての美術の有益性にあると言えます。「デュシャンの《泉》」によって、アーティストの思考と概念があらゆるものを美術化することが可能であると提示されたとき、それは美術の膨大な歴史と事実においてどのように意味を獲得し美しさを創出したかにあります。ダバダでは、美しさを提示する場の創出とともに、美術(市場)のための美術ではなく、生活における発見を促し、生きた/活きた美術を目指します。



dabada-projectは2010年より開始し2年間で9回を数えます。(※2012年3月現在)
dabadaはDADA+BA(場)の造語からなり、それは文字どおり展覧会という場の創出と、『EMPTINESS=無』をキーコンセプトに企画・構成されてきました。
本展では、日本における詩や俳句を始め、襖絵や屏風絵に見られる具体的な事物に対する抽象的な表現を、マジックリアリズムの特徴である現実と非現実の融合と同一線上に捉え、近接するシュルレアリスム、ノイエ・フォトなどへと集約した新即物主義、それらが繰り返し用いる現実味という感覚を軸に、トリミング/クローズアップ/ループをキーワードに作品を構成します。



藤林 悠 Haruka Fujibayashi

1978年秋田県秋田市出身、茨城県取手市在住。2008年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修士課程修了、2006年東京造形大学美術学科絵画専攻卒業。日々、人々、地域といった広域的な意味での「場所」から着想した作品を展開。映像、写真、ドローイング、ペインティング、インスタレーションなどの表現手法を用い、アートプロジェクト、アーティストランススペースの運営等に関わりながら活動している。



川松 康徳 Yasunori Kawamatsu

1984年群馬県生まれ。群馬を拠点に活動し、2008年にドイツのクストハーレでのパフォーマンスを皮切りに2009・2010年のエジンバラアートフェスティバルでの出品など海外での展覧会を重ねています。美しいこと(ものではない)に着目し、事柄としての文脈をひとつの構造物と捉え、その文脈の無化と逸脱、そのための並列を制作方法としながら、ある意味と他の意味の平均化によって無そのものを定義しようとする映像作品を制作している。2010年より始動したdabadaの主宰を務める。

NEUE

*現実味とEMPTINESS=無の関係

まず現実味という感覚は、どこから来るのか?

それは現前する事物において、現前した体験という過去と、それに内在する経験値と現前する事物の照応によって導き出されるものであり、現実だけでは無く、過去によって与えられたイメージによって、より現実的な経験へと押し上げる過程に覚える感覚である。そこでは今という時間に過去という時間がまどわりつき、過去・現在・未来という時間軸を喪失した、より過密な現在という体験、時間的制約と空間的制約に束縛されない、まさに「いま・ここ」という感覚体験が存在する。つまりそれは時間的制約と空間的制約の無化によって現実味を感覚することを意味している。

TRIMMING

CLOSE-UP

LOOP

ミリアム・ウォルシュ Miriam Walsh

アイスランド出身。エジンバラ大学大学院アーツスペース&ネイチャークラス卒業。現在母校のプロジェクトチームに所属し活動している。自転車に乗せ撮影した2つのビデオカメラによる映像を、窓に見立てたスクリーンに上映し、身体的なズレと視覚的なズレを表現した作品。見た目とは違う段ボールで作られた不安定な椅子は、身体の有り様を示し、また彼女自身が暮らすスコットランドとイングランドの地理的な分断を暗示する作品でもある。

MIRIAM WALSH



山本 信幸 Nobuyuki Yamamoto

1982年岐阜県生まれ。神奈川を拠点に活動し、2011年にはエジンバラでグループ展に参加するなど海外へも活発に活動の幅を広げています。
支持体に絵具という絵画の形式の逸脱において、より厳密な平面へと還元する作品を制作する。
オブラートのような薄い絵画は、支持体から剥がされた絵具のみで出来ており、より表面的で平面的なイメージを提起する。

NOBUYUKI YAMAMOTO

